

ベトナム沖「15-2鉱区」権益取得15周年記念事業の実施について ～ハナム省の中学校校舎建て替え資金を寄付～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)および当社の石油開発部門である新日本石油開発株式会社(社長:大森 輝夫、当社100%出資会社)は、ベトナム沖「15-2鉱区」の権益取得15周年を記念し、ベトナム社会主義共和国ハナム省タン・リエム郡人民委員会に対し、タン・チュエン中学校校舎建て替え資金13.7万米ドル(約16百万円)の寄付に関わる贈呈式を実施しましたのでお知らせいたします。

ベトナム南部の沖合に位置する「15-2鉱区」では、1992年10月に、当社グループの石油開発プロジェクト会社である日本ベトナム石油株式会社(以下「JVPC」)が、ベトナム政府より権益を取得し、オペレーターとして探鉱活動を行った結果、1994年6月にランドン油田を発見いたしました。

その後、JVPCは、同油田の北部(1998年)、東部・南部(2002年)、中部(2005年)と商業生産を拡大しており、同油田におけるこれまでの累計生産量は既に1億4千万バレルに達しております。さらに、同油田の北東に位置するフンドン油田においても、2007年5月に開発作業を開始し、2008年9月末の生産開始を目指しております。

この「15-2鉱区」権益取得15周年を記念し、8月29日(水)にベトナム シェラトンハノイホテルにおいて、ベトナム政府関係者、ベトナム国営石油関係者などを招待した記念セレモニーを開催いたしました。この中で当社グループを代表し、当社社長 西尾 進路より、タン・チュエン中学校の建て替え資金の目録を贈呈いたしました。

当社グループでは、ベトナムにおいてこれまでに、小学校の建設資金の寄付(2002年)、身体に障害を持つ子どものためのリハビリセンターの建設資金の寄付(2005年)など、様々な社会貢献活動を実施するとともに、JVPCの社員が中心となって、これらの施設の子どもたちとの交流活動も行っております。今後も地域社会の一員として、このような社会貢献活動を継続してまいります。

左からタン・チュエン中学校グエン・ティ・ニャン校長、新日本石油開発社長大森輝夫、
当社社長西尾進路、ハナム省タン・リエム郡人民委員会グエン・ニューラム副委員長



以上

1. 寄付の概要

- (1) 寄付額： 当社および新日石開発から合計13.7万米ドル(約16百万円)
- (2) 寄付先： ベトナム社会主義共和国ハ・ナム省タン・リエム郡 人民委員会(郡の行政機関)
- (3) 目的： タン・チュエン中学校 校舎建て替え費用、それに伴う備品等の購入費用として

2. ベトナム沖「15-2鉱区」の沿革

ベトナム沖15-2鉱区図

| | |
|-------------|--|
| 1992年10月 | 「15-2鉱区」権益を取得 |
| 1994年6月 | 試掘1号井においてランドン油田を発見 |
| 1998年8月 | ランドン油田北部地域より生産開始 |
| 2000年2月 | ランドン油田、コノコ・フィリップス社に権益の一部譲渡 |
| 2001年11月 | ランドン油田随伴ガスの出荷開始 |
| 2002年8月 | ランドン油田東部地域より生産開始 |
| 2002年9月 | ランドン油田南部地域より生産開始 |
| 2005年6月 | ランドン油田中部地域より生産開始 生産開始より累計生産量1億バレル達成 |
| 2006年2月 | ランドン油田随伴ガス回収・有効利用プロジェクトがCDMとして国連機関に登録 |
| 2008年9月(予定) | フンドン油田生産開始 |



3. ランドン油田の概要

- (1) オペレーター 日本ベトナム石油株式会社
- (2) 保有権益比率 46.5%
- (3) パートナー(権益比率) PVEP* (17.5%)、コノコ・フィリップス(36.0%)
- (4) 生産量(保有権益分) 2007年1~8月平均
日量約4万4千バレル(日量約1万4千バレル)

*PVEP (PetroVietnam Exploration and Production) =ベトナム国営石油会社の子会社

4. 日本ベトナム石油株式会社の概要

- (1) 商号 日本ベトナム石油株式会社
- (2) 代表者 取締役社長 大森 輝夫
- (3) 所在地 東京都港区西新橋一丁目3番12号
- (4) 設立年月日 1992年8月21日
- (5) 事業内容 ベトナムにおける石油・天然ガスその他鉱物資源の探鉱、開発および採取他
- (6) 資本金 22,530百万円
- (7) 株主構成
新日本石油開発(株) 53.13%
新日石資源投資(株) 43.94%
三菱商事(株) 2.93%

以上